

FirstGlobal メッセージ

siesta

2017.7月号 vol.170

発行元：〒540-0012

大阪府中央区谷町1-6-4

天満橋八千代ビル10階

(株)ファーストグローバルコンサルティング

代表取締役

戦略人事コンサルタント 品川典久

TEL 06-6910-3007 FAX 06-6910-3008

Email shinagawa@1gc.jp

URL <http://www.1gc.jp>

今月のトピックス

自己評価

広告代理店の博報堂が設立した「博報財団こども研究所」が小中学生とその親、ならびに教員を対象にのべ4,600人に実施した「こどもトライアングル調査2016」の結果を公表していました。

子ども、親、教員に対して24のことばの選択肢のうちで自分（子ども）がどれに当てはまるか、を選ぶというものです。抜粋しますと、8割の子どもが「今の自分を『普通』」と評価、「将来になりたい自分」では「最後まであきらめない」「努力する」等、がんばる言葉が上位に挙がったそうです。この国の将来も捨てたもんじゃないですね。また、子どもは、親や教員が思うより、自分を「最後まであきらめない」「負けず嫌い」と評価している割合が高かったそうです。同研究所の分析では「子どもは将来の姿に向けて現実に努力しているとの自己評価だが、大人はもっとできると見て、期待値が高くなっているのでは」とのことでした。小生も仕事柄、企業の人事評価作業に関わる場面がありますが、社員に自己評価をやってもらう場合、良し悪しはさておき、概して「自己評価」のほうが高くなります。そのあたりは全く同じですね。他者評価が正しくて、自己評価は正しくない、とは必ずしもいえません。ただ、結果的に上司と部下の評価にズレが生じるのは、避けられません。そこにお給料やボーナスの話が絡んでくるので、話がややこしくなります。だからといって、評価制度などやるべきではない、ということにはなりません。ズレが生じるのを前提にそのズレについて、「何をやってほしいのか?」「何が足りないのか?」を双方で検証し合うことが最も大事なことでしょう。これを「フィードバック」と言ひまして、小生もクライアントにその重要性を説きますが、部下の人数が多くなると、忙しさにかまけて、ついおざなりになりがちです。評価面談、などとかしこまると、先送りになりがちです。で、「今、ちょっといい?」の5分から始めることをおすすめします。4月より「人事評価改善等助成金」という最大130万円受給できるものも始まりましたので、この機会にご利用下さい。詳しくは上記まで。

< next >

5月より「人事戦略研究会」という勉強会組織を立ち上げました。主には毎月弊社で法改正ネタなどのセミナーを定期的開催し、情報交換の場にしたいと考えています。追ってご案内してまいりますので、ふるってご参加下さい。よろしくお願ひ申し上げます。